

SCOUTING 茨城

日本ボーイスカウト茨城県連盟は、社会の変化に即応して、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題をより良く解決する資質や能力を高める活動を行っています。また、その中で、自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性を養い、そして、たくましく生きていくための健康や体力を獲得することを重点的に取り組んでいます。



2025年度撮っておきの写真コンテスト& 茨城県連盟カレンダープロジェクト 最優秀作品より

「びかびかのナス！これに決めた！」 水戸第5団 関原仁美

2025/8/24 笠間第2団副長の畑にて

太陽の光をいっぱいあびたナスはピッカピカ！収穫に集中しています。

活動的で自立した青少年を育てる ★ ボーイスカウト!

令和八年

スカウト運動
120年に向かって日本ボーイスカウト茨城県連盟
連盟長 関 正樹

新年あけましておめでとうございます。

日頃よりボーイスカウト運動の発展にご尽力いただきありがとうございます。

イギリスで始まったこのボーイスカウトという運動は、今年で119年を迎えます。Scouting for Boysを読んだ子どもたちが次々とこの運動に参加し、あっという間に世界に広まりました。今、全世界で173の国と地域、5,700万人以上のスカウトがともに活動しています。日本では1983年のピーク時に33万人いた加盟員数が、2025年11月では7万人あまりと1/5になっています。少子高齢化、習い事の多様化と時間の競合、社会構造の変化、指導者の確保と育成の課

題、デジタル化の進展など様々な要因が重なり合った結果と分析されています。

茨城県連盟ではワクワク自然体験あそびをはじめ、様々な取り組みの結果、2025年3月の登録でカブスカウト部門とビーバースカウト部門でスカウトが増えました。デジタル化の進展に伴ってバーチャルな人間関係やコミュニケーションが子どもたちにも浸透している今こそ、リアルな体験をとおした成長を目指すボーイスカウト運動の意義が高まっています。今年度は第19回日本スカウトジャンボリーが開催されるなど、スカウトたちにも大きなチャンスが巡ってくる年です。この運動の未来を信じ、共に活動に取り組んでいきましょう！

新たな出会いと 学びへの期待を 込めて



日本ボーイスカウト茨城県連盟
理事長 宮田 俊晴

新年あけましておめでとうございます。日頃より日本ボーイスカウト茨城県連盟の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

昨年も、各地区・団において、地域に根ざした多様な活動が展開されました。青少年の健全育成という使命のもと、多くのスカウトが仲間と力を合わせ、自然に学び、奉仕に汗を流し、成長を遂げた一年でした。また、それらの活動を支えてくださった指導者の皆さま、保護者の皆さま、そして地域社会の温かいご支援に、あらためて深く感謝申し上げます。

本年、茨城県連盟にとって特に大きな節目となる行事が、第19回日本スカウトジャンボリーへの参加です。8月、広島県・神石高原町で開催されるこの大会へ、154名の派遣を予定しています。スケールの大きな野営体験、全国の仲間との交流、そして平和への理解を深める広島の地での学びは、スカウトにとってかけがえのない成長の機会

となることでしょう。また、派遣に参加しないスカウトにも、県内でのキャンプや奉仕活動、地域交流など、多様な成長の場を届けられるよう、各種事業に一層力を入れていく所存です。

社会の変化が加速する中で、ボーイスカウト運動が育む「自ら考え行動する力」「多様性を尊重する心」「仲間と協働する姿勢」は、これからの時代を生きる若者にとって、ますます重要な価値となっています。茨城県連盟は、これらの精神を大切にしながら、地域に開かれた活動を展開し、より多くの子どもたちにスカウト運動の魅力を届けていきたいと考えております。

本年も、スカウト一人ひとりが自らの可能性を広げ、豊かな経験を積む一年となるよう、全力で取り組んでまいります。引き続き、皆さまのご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、2026年が皆さまにとって実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

年頭挨拶

01 第1地区

市民凧揚げ大会で2年連続優秀賞

1月10日に行われた新年恒例の「市民凧揚げ大会」に於いて日立第8団のカブスカウトが優秀賞を受賞しました。

この市民凧揚げ大会は、日立南部に伝わる「八つ凧」の継承も図るべく、毎年新年に行われているものです。日立市会瀬町の会瀬青少年の家を会場として、子どもや大人、市民130人あまりが集まり、凧揚げを楽しみ、技を競っていました。八つ凧の保存会では地域の子供達に凧の作り方や歴史を教えているそうです。

受賞したのは、しかスカウトの佐藤颯祐さんで、昨年も最優秀賞を受賞し、みごと2年連続の受賞となりました。受賞したご本人にとっても大きな自信に繋がる事でしょう。

(日立第8団 CS隊長 大部由起江)



02 第2地区

カブ部門合同スケート訓練

毎年恒例の第2地区カブ部門合同スケート訓練が、11月23日に茨城県立笠松運動公園スケート場にて行われました。

101名のスカウトと指導者がスケート訓練に参加し、レベルに合わせて4名のインストラクターに指導を受けました。誰もがインストラクターの指示をしっかりと聞いて滑り、2時間の訓練時間はあっという間に過ぎてしまいました。

滑ることのできなかったスカウトが手すりを持たずに滑れたときの笑顔や去年より難しい技に挑戦しているスカウトの姿がとても印象的でした。

スケート訓練の約束を守り、怪我なく安全に活動ができました。

(2地区 カブ部門副コミッショナー 磯崎幸子)



03 第2地区

第2地区発足50周年記念大会

令和7年11月30日(日)、偕楽園公園「四季の原」で開催されました。

ご来賓として、水戸市・ひたちなか市・城里町の首長や教育長。県連盟から副連盟長・理事長・事務局長・地区選出理事。ガールスカウトの方々。そして各団育成会長等各位のご参列をいただき、第1部は祝賀式典を執り行いました。

つづいて第2部は部門ごとの出し物発表、大型工作物の展示と体験を楽しみました。

昼休みはピアノ生演奏と歌のランチタイムコンサート。ほかにも各団の展示ブースやスカウトヒストリー展示、スカウトマニアショップ等…盛りだくさん。何より小春日和の好天に恵まれ、素晴らしい一日となりました。

(第2地区発足50周年記念事業委員会 広報委員長 矢作博史)



04 第3地区

IBグランプリ地区大会

令和7年11月24日(月)に県西総合公園体育館にて、IB-グランプリ第3地区大会を開催しました。Bクラス8台、Cクラス21台、Aクラス14台が出場。笠間第1団、笠間第2団、桜川第1団、結城第1団、古河第1団、坂東第1団のスカウト、指導者、保護者が集まり、速さを競いました。厳しい車検を潜り抜け、競技に臨んだカートたちが熱戦を繰り広げました。

体育館には応援の声が広がり、スカウトたちは自分の団だけではなく、分け隔てなく出場カートに声援を送っていました。保護者の方も多数来場し、レースの結果に一喜一憂されていました。隊活動と家庭をつなぐとてもよい活動になってきていると思います。

(第3地区副委員長 宮田俊晴)



05 第4地区

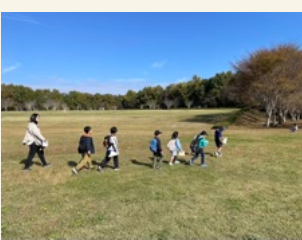
ワクワク自然体験あそび

秋晴れに恵まれた11月16日(日)、水郷県民の森にて神栖第1団でワクワク自然体験あそびを開催しました。今回は日本連盟の「ポケモンとの連携事業」プログラムを利用し、カブスカウトをポケモントレーナー、ビーバースカウトと一般参加者をポケモントレーナー候補者と見立て、1組あたり8名のグループに分かれて、園内各所に設けた5つの関所でボーイスカウトの教育要素である「人格・健康・技能・奉仕」に関連した課題をクリアしつつ、迷子になったポケモン達を「観察力」で探し出す旅を繰り広げて貰いました。起伏に富み広々とした県民の森を利用した事で、木々や落ち葉、切り株など自然の中にポケモンプログラムが上手く溶け込んでいました。

一般参加者は23名の応募がありましたが、参加した子供達もスカウト達も、ポケモンと共に元気いっぱい歩き回り、暖かな晩秋の陽射しの下で冒険を楽しんで貰えた様です。

ワクワク自然体験あそび等の体験活動を通して、ボーイスカウトの面白さや楽しさを広くアピールし、少しでもスカウト人口の増加に繋がればと思っています。

(神栖第1団 ビーバー隊隊長 富田弘司)



07 第6地区 地区だより

今回も団行事として、公民館活動の支援をしながら、ミニ門松作りをしました。参加募集をしたところ、初日に60名以上の応募者があったそうです。受け入れ人数が限られていて、今回は15名に増員して楽しく門松をつくりました。

今回は年神様についておはなしします。

年神様は、祖霊(先祖の霊)と重なる存在として考えられており、家ごと・地域ごとに迎える「その家の年神様」で、歳神(としがみ)、歳徳神(としとくじん)、正月様(しょうがつさま)、御年神(みとしのかみ)といった称号で呼ばれます。

その家の神様ですが、家神・屋敷神は一年を通して家をまもる神様で土地や家そのものに宿る「常駐の神様」であり、年神様は正月にだけ山から下りてくる「年の力」を授ける神様です。ここでいう「年」とは生命力や成長力、稔りの力を意味しています。

古くは「今年も無事に作物が実るか」「家族が健康に過ごせるか」は「年」の力に左右されると考えられていました。ですから、お正月に迎える神様は「その年の生命力をもたらし神様＝年神様」なのです。

民俗学的には、年神様は「先祖の霊が年ごとに訪れる姿」と説明されることが多いです。つまり先祖⇒家を守る存在、先祖⇒毎年「年」を授けに来る存在の二つの側面が重なり、その役割によって呼び名が変わったと解釈できます。

お正月行事とのつながりは次のような意味をもっています。

門松：年神様が家を見つけるための目印

しめ飾り：神聖な場所であることを示す結界

鏡餅：年神様が宿る場所

おせち料理：年神様へののお供え、家族が年神様とともに過ごすための食事

年神様をお迎える4要素でしょうか。

年神様は元旦の朝に山から下りてきて、家の鏡餅にやどります。鏡餅は丸餅を二つ重ねたもので、太陽と月をあらわしています。お正月に滞在して、松の内が終わると山に帰りますので、松が取れたら、年神様の宿った鏡餅をいただいて力を体に取り込むため「鏡開き」をします。神様が宿った神聖なお餅ですから、切ったり割ったりせずに開きます。

(第6地区 地区委員長 富田光紀)



08 茨城ローバースカウト協議会 (茨ロー会)

ローバースカウトの所属章を作りました！

茨城のローバースカウトの集まり、通称「茨ロー会」の所属章を作成しました！

これは茨城県内にあるローバースカウト・同年代指導者が、「茨ロー会の一員である」証です。責任感や一体感を持って活動できるように、さらに活動に対するモチベーション向上も目的としています。

今後、順次皆さんに配布していきますので、楽しみにしてください！！

(茨城ローバースカウト協議会 議長 石井紅)

★所属章デザイン★



茨城県の木である「梅」を中心に据えることで地域性と茨城の誇りを表現しました。

全体的に柔らかな曲線を用いているのは、変化し続ける社会の中でも、しなやかに適応し、自分らしく進んでいくローバースカウトでありたいという思いを込めました。

また、「茨ロー会」と漢字を用いることで、日本人らしさを表現し、印象に残るデザインと掛け合わせることで地域と世代を超えて愛されるシンボルとなることを目指しました。



←茨ロー会のLineグループはこちら
Instagramのフォローはこちらから→



09 イベント国際委員会

IBグランプリ県大会実施結果

2025年度のIBグランプリを12月7日(日) ひたちなか市松戸体育館で開催いたしました。

参加台数

Bクラス(ビーバー年代)	42台
Cクラス(カブ年代)	93台
Aクラス(ボーイ年代以上)	22台

参加人数(概数)

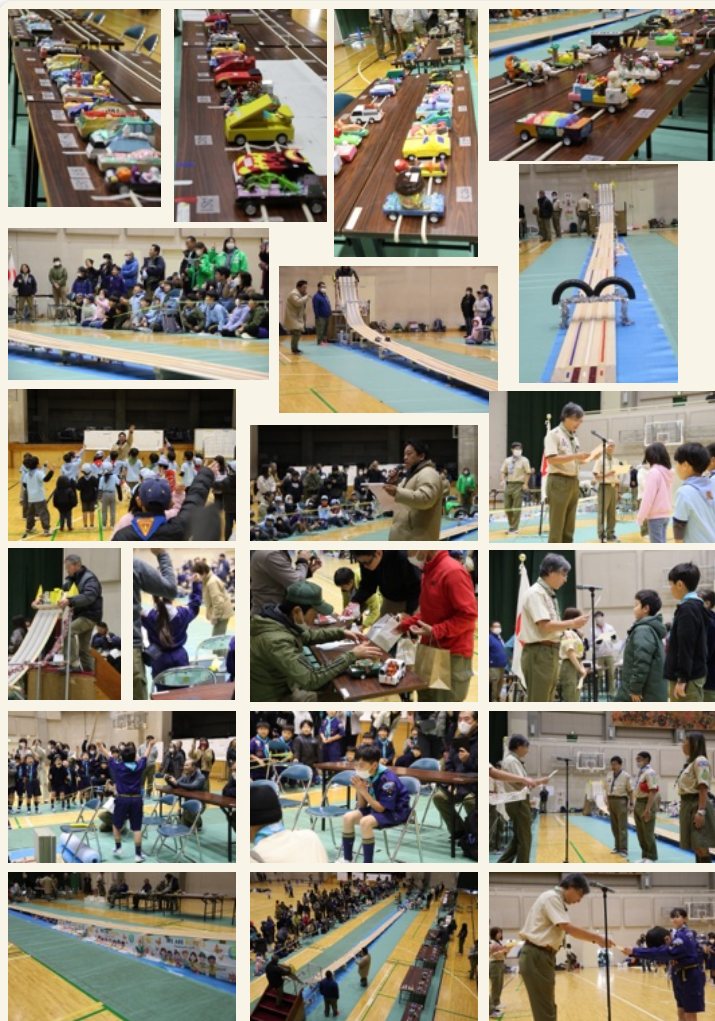
スカウト	150人
リーダー	50人
保護者	100人
スタッフ・奉仕者	33人 合計 333人

今年も各クラスとも地区大会から多数のエントリーがあり、選抜された車両で盛大に開催できました。

レースはAクラスのレギュレーションもB・Cクラスと同様とし、レースをスカウトと成人に分けて開催・表彰を行いました。

デザイン賞部門も170台のエントリーがあり、傑作ばかりで選考に迷いました。

(イベント国際委員長 園部康夫)



レース及びデザイン賞の結果は以下の通りです。

(賞 氏名(所属) レースカー名)

Bクラス

1位: 田村 嶺(日立8団)	カラフルE10系
2位: 坂本 翼(ひたちなか1団)	KFC号
3位: 高田 喜久乃(日立8団)	BIRD号

Cクラス

1位: 迫田 悠一(つくば3団)	爆裂光速号
2位: 田村 斗真(日立8団)	スーパーマリオ号
3位: 高田 千寿(日立8団)	Snoopy号

Aクラス

スカウトの部

1位: 畑山 純伶(つくば3団)	カマキリ最強伝説号
2位: 川西 康太(水戸2団)	白玉石号
3位: 畑山 起槻(つくば3団)	ブレイズトルネード号

Aクラス

成人の部

1位: 佐藤 真実(日立8団)	リベンジ号
2位: 和田 真一(水戸8団)	起死回生号
3位: 平山 貴靖(日立7団)	ターボ5th号

グッドデザイン賞

金賞: 櫻井 健人(牛久1団カブ隊)	バハムート零式号
銀賞: 松戸 馨子(阿見1団カブ隊)	ピアノ号
銅賞: 朝倉 悠月(水戸8団カブ隊)	火山号

アイデア賞

金賞: 山口 智輝(守谷1団カブ隊)	たいやき号
銀賞: 西久保 宗介(水戸5団カブ隊)	大好き!いばらき!号
銅賞: 関澤 玲里(水戸8団カブ隊)	ハロウィンキラキラ号

ベストカラーリング賞

金賞: 関 秀一朗(取手3団ビーバー隊)	ファイヤーグリフォンカー号
銀賞: 西尾 美咲(水戸8団カブ隊)	プリン・アラ・モード号
銅賞: 荒井 紫乃(結城1団ボーイ隊)	ほむら号

特別賞

連盟長賞: 田山 千尋(水戸8団ビーバー隊)	ミyakミyak号
理事長賞: 須賀 快裕(つくば3団カブ隊)	カブクワ号
県コミッショナー賞:	

谷田部 玄寿(ひたちなか1団ビーバー隊)

お宝ゲットだぜ! 2025ver号



Bクラス入賞車



Cクラス入賞車



Aクラス
(スカウトの部)
入賞車



Aクラス
(成人の部)
入賞車



10 信仰奨励特別委員会

第21回県キャンポリーにおける 「信仰の時間」

8月8日～11日「高萩スカウトフィールド大和の森」にて開催されました第21回茨城県キャンポリー(21IC)では、8月10日の朝に「信仰の時間」が設けられました。

21ICにおける「信仰の時間」は、従来のジャンポリーやキャンポリーのように複数の宗教儀礼を同時進行で別会場に分かれて行うのではなく、会場内のスカウトホールに全員が集まって、佛教・基督教・神道(実施順)の三教宗派により、20～25分ずつ講話(佛教・基督教)や儀礼(神道=21IC安全祈願祭)を実施し、参加者全員がそれに参加する形式を採りました。

この開催方式により、互いの信仰や宗教への理解が進み、各自の信仰に対する認識が向上したのではないかと考えます。

(信仰奨励専門委員会 委員長 矢作博史)

11 地域連携・広報委員会

高萩スカウトフィールド活用事業 (親子デイキャンプ)

今年度の親子デイキャンプは11月22日(土)に高萩スカウトフィールドにて開催されました(主催: 高萩スカウトフィールド活用事業実行委員会、共催: 高萩市教育委員会&ボイススカウト日本連盟)。

当初 10 組 28 名のご家族の参加申し込みを戴いていましたが、インフルエンザの流行が早く、10 名が欠席、7 組 18 名のご参加となりましたが、それでも秋晴れのもと、スカウトフィールドは野外活動を楽しむ皆さんの笑顔と活気が満ち溢れていました。

県内各地区のローバースカウト、隊指導者、団委員各位からのスタッフ奉仕協力も多数戴き、プログラムをスムーズかつ活いきと展開する事ができました。直接、間接のご協力を戴いた関係者の皆様に感謝申し上げます。

(SC-IB_NEWSLETTER_20251128号記事より転載)



12 地域連携・広報委員会

スカウトの日 活動報告

毎年9月の敬老の日(第三月曜日)を「スカウトの日」として、加盟員一人ひとりが地域社会に貢献することを目的とし、全国のスカウトや指導者が地域社会への奉仕活動をはじめとする様々なスカウト活動を、全国の各地域において一斉に展開し実施しています。

今年度も、地域課題の解決や持続可能な開発目標(SDGs)達成に向けた取り組みとして「スカウトの日」を県内各地で展開しました。

9月から10月の期間にスカウトの日に関連した活動を行った報告として届いたものは、6つの地区の24個団で、スカウト、指導者、そしてスカウトのご家族や関係者、総計749名の皆さんの様々な活動への取り組みがありました。

毎年難民支援として衣服回収を行う団、海岸のプラごみ清掃に取り組む団、祭りや花火会場の清掃活動を行う団、霞ヶ浦湖上スクールに参加し、水資源や環境対策を学んだ団、ライオンズクラブやロータリークラブ、建設業組合の皆さんとの共同作業等々、活動内容は非常にバラエティに富んだものとなりました。

(地域連携・広報委員長 富田弘司)



日立5団



日立8団



ひたちなか1団



水戸5団



北茨城1団



水戸8団



桜川1団



古河1団



結城1団



神栖1団



つくば1団



つくば1団



土浦3団



牛久1団



牛久2団



取手3団



守谷1団





SCOUTING 茨城

SCOUTING 茨城 2026 年 第 1 号 通算 56号 令和 8年 1月発行
発行 日本ボーイスカウト茨城県連盟
〒 310-0034 水戸市緑町 1-1-18 茨城県立青少年会館 3F

※SCOUTING 茨城は、不定期で発行しています。

※SCOUTING 茨城は、県連ホームページからもダウンロードできます。

<http://www.scout-ib.net/>

※SCOUTING 茨城に掲載されている写真・文章等は著作権法等により保護されています。
著作権者に無断の複写・転載は堅くお断りいたします。